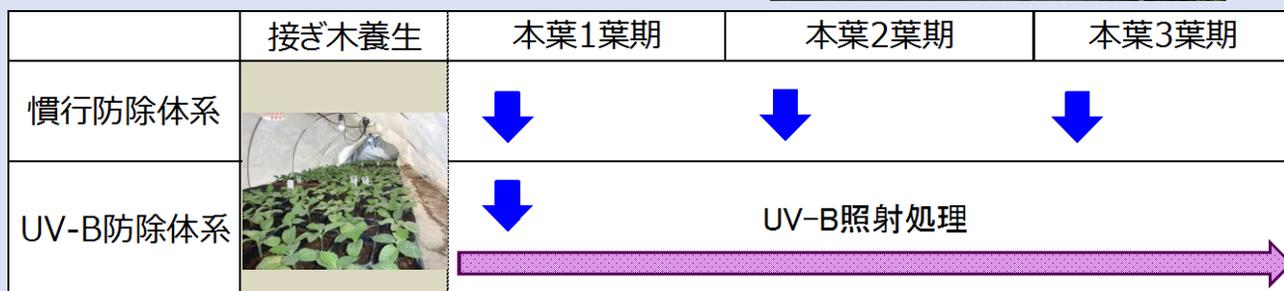


UV-B照射によるキュウリ、トマト苗のうどんこ病抑制効果

技術の概要

- ・UV-B電球形蛍光灯を用いた毎日2時間から3時間のUV-B照射により、キュウリ、トマトのうどんこ病を抑制できます。
- ・UV-Bの放射照度を2～7 $\mu\text{w}/\text{cm}^2$ とすることで、葉の障害を発生させずに、病害抑制効果を得ることができます。



キュウリにおける慣行防除体系とUV-B防除体系の模式図

※図中の ↓ は、化学合成殺菌剤の使用時期、UV-B照射処理は接ぎ木養生後から毎日照射

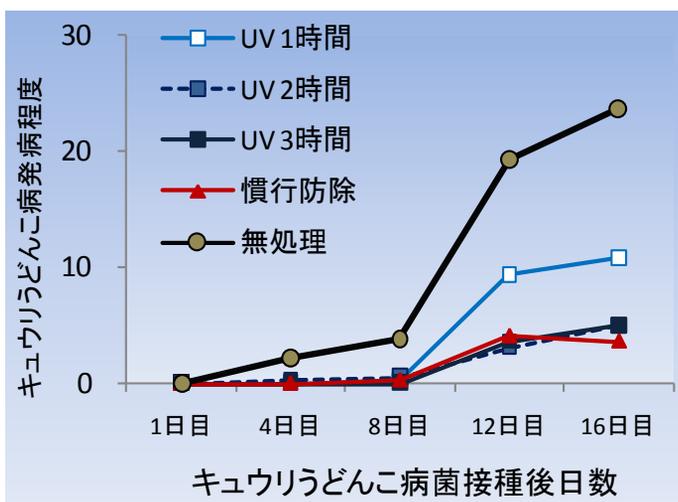
※トマトのUV-B防除体系も、キュウリと同様に接ぎ木養生後の化学合成殺菌剤防除を行い、菌密度をしっかりと減らしてからUV-B照射処理を開始します

※UV-Bは波長が280～320ナノメートルの波長を持つ中波長紫外線です（1ナノメートルは10億分の1メートル）

※文中のUV-B放射照度は目安のため、器具を設置する圃場により異なる場合があります。また病害抑制効果は品種、栽培方法により異なります。小面積でお試しいただき、効果を確認した上で本格的なご利用をおすすめいたします。

期待される効果

- ・UV-B照射は、植物の免疫機能の活性化を促す作用があるため、特定の農薬に耐性を持ったキュウリうどんこ病にも効果的です。
- ・接ぎ木養生直後からの継続したUV-B照射処理により、二次育苗期間中の殺菌剤の使用回数を1/3に減らすことが可能です。



苗産業ふくしま復興コンソーシアム

【お問い合わせ先】福島県農業総合センター作物園芸部野菜科

TEL: 024-958-1724

当該技術は農林水産省委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の成果です。